

公益社団法人京都染織文化協会

令和3年度事業計画（案）

<基本方針>

古くは平安時代から発展してきた日本の染織文化とその技術は、ライフスタイルの変化に伴う伝統文化の継承困難によりその存続が危ぶまれている。当協会では、染織に関わる所蔵資料やネットワークを通じて、あらゆる方法により一般社会に広く啓発することで染織文化・染織技術への理解と関心を深め、次代に継承していく。

1. 公益事業

「染織文化資源の保全と啓発事業」

■「染織祭」の詳細調査並びに公開（継続事業）

昭和6～26年に染織業の発展を祈念し盛大に執り行われた「染織祭」について北野裕子氏（龍谷大学経済学部 非常勤講師）に依頼して詳しく調査を行い、その成果を展覧会並びに当協会ウェブサイト並びにweb上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』で情報公開するとともに、学術研究機関への論文投稿、当協会ウェブサイトでのコラムなどを通して染織祭並びに染織大国・京都の認知を上げる。

<今年度調査>

史料からみる調査

- ・行政・関連団体・企業・神社の史料調査
- ・衣装制作に携わった人物調査(文献、研究者等)

収蔵品からみる調査

- ・衣装並びに道具類(髪飾り・太鼓・軸等)に関する調査
- ・昭和59年「染織まつり」記録にみる衣装補修・新調状況調査

■衣装台帳のデータベース化（継続事業）

当協会が衣装と共に所蔵する143領分の台帳は、すべて手書きで作成されているため、内容や画像をデータベース化して端末上で管理することで利便性を図る。

<今年度作業>

江戸末期衣装の傷み度確認／構成物の各画像データ集積

■染織祭関係史料の公開（継続事業）

当協会が保管する染織祭関係史料データをウェブサイト上で公開する。

<今年度対象資料>

- ・衣裳行列担当組合並行列順位(昭和8年起 染織講社)
- ・時代行列衣裳寄託契約書綴(昭和8年以降 染織講社)

■染織技術アーカイブ作成に伴う資料調査（継続事業）

当協会所蔵の全国染織産地合同制作布地で使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容をウェブサイト上で染織技術アーカイブとしてまとめ、順次公開する。

※染織祭衣装は平成29年度をもって全て公開済。

<今年度対象資料>

「全国染織産地合同制作布地」約10点

■染織祭衣装の補修・修繕並びにレプリカ制作（継続事業）

◎補修・修繕

当協会が設定している「傷みの5段階評価」に基づき、評価4（複数個所に著しい傷み、汚れがあるが修理可能な状態）の衣装を中心に依頼先と協議の上着手する。

（対象衣装）

鎌倉時代衣装より1点

（依頼先）

松下装束店（京都市中京区）

◎レプリカ制作

衣装の劣化に伴う将来の備えとして、また職人による技術復興・継承の機会として複製の制作に引き続き着手する。制作工程の過程を動画撮影し、その詳細を当協会ウェブサイト「インターネット染織講座」にて公開する。

※令和3年度日本芸術文化振興基金助成金申請中、（一社）京都染織会館助成金申請予定

（対象衣装）

室町時代5号「紅練緯地雪輪松花綱段替文様小袖」

室町時代9号「練緯地松皮菱団扇波文様小袖」 ※最終頁参照

（協力先）

京鹿の子絞振興協同組合／京都府織物・機械金属振興センター

■創立80周年記念事業

本年創立80周年を迎えるにあたり、次の通り記念事業に取り組む。

*創立 80 周年記念展覧会の開催

「再現 女性の服装 1500 年—京都の染織技術の粋—」

会 期 7 月 15 日(木)～9 月 28 日(火)10:00-16:30 ※7/16、9/17 は 19:00 迄。日・祝閉館

会 場 文化学園服飾博物館(東京都渋谷区代々木)

主 催 公益社団法人京都染織文化協会、文化学園服飾博物館

後 援 京鹿の子絞振興協同組合、京都刺繍組合

監 修 長崎 巖氏(共立女子大学 教授)

要 旨 当協会と博物館衣装による古墳～明治時代の日本の服装の変遷を概観し、染織祭から 80 年余りを経た今日、京都の染織技術の再発見を試みる。

内 容 第 1 部 移り変わる風俗—京都染織文化協会の所蔵品から—

第 2 部 文化学園服飾博物館所蔵品

第 3 部 京都の染織技術ここにあり

催 物 ①職人による実演(辻が花色挿し・傘絞り・疋田絞・金彩・京刺繍)

②ワークショップ(辻が花色挿し・傘絞り・疋田絞・金彩)

③講演会(「近世以来の日本の服飾文化」長崎 巖氏、「京都・染織祭」北野裕子氏)

図 録 東京美術制作 96 項 500 冊制作。※展覧会会場内で販売

入場料 一般 500 円／高・大学生 300 円／小・中学生 200 円

*書籍の発刊

「忘れられた祭り 京都染織祭 —恐慌・戦争・復興を駆ける—」

著 者 (執筆者)北野裕子氏(龍谷大学経済学部 非常勤講師)

(監 修)公益社団法人京都染織文化協会

概 要 昭和初期、世界恐慌の只中にあり、深刻な不況下にあった中で、なぜ豪華絢爛な染織祭が執り行われたのか。そこには染織大国・京都を取り巻く問題や日本一の観光都市を目指す行政の意図など、様々な思惑が交差した。協会に残された復元女性時代衣装や史料の数々から祭りの全容を解明する。

出 版 思文閣出版(思文閣ワークス制作)

制 作 B5 判 64 項(予定)400 部制作。2021 年 7 月発刊。

配 布 協会会員、関係団体等

販 売 1,500 円(税抜) ※一般書店並びにネット通販にて販売

■染織祭衣装に関する展覧会協力

美術館等が企画する染織祭衣装に関する展覧会に協力を行う。

■染織資料並びに画像貸付協力

美術館、出版社等の要請に応じて衣装現物や画像の貸付協力を行う。

【染織祭衣装貸付】

- ・公益性のある美術館、博物館等を対象に貸付。
- ・染織祭衣装については返却後メンテナンス作業が伴うため、貸付期間に関係なく、1領につき1万円のメンテナンス料を徴収する。

【染織祭衣装画像貸付】

- ・染織文化・染織技術を啓発する当協会の目的に合った内容の出版物や番組等を対象に無償で貸付ける。

■全国染織産地合同制作布地の公益的な取組みについての検討

当協会が所蔵する全国染織産地合同制作布地 1,089 点は、全国の染織産地の技術力と京都の意匠力を結集させ制作されたものであるが、中には産地の衰退もあって現在は再現できないものも含まれている。貴重な技術資料である布地の公益的活用の取組みを検討する。

■染織技術復興に向けての取組みの検討

全国には過去制作され現在では廃れて継承が途絶えた染織技術が数多くあり、近年その技術を復興させようという動きが各地で起こりつつある。当協会において技術面等からの復興支援を行い、染織技術の継承と豊かな染織文化の提案を行う。

「染織技術等継承事業」

■染織技術啓発のための小冊子の配布（幼児～小学生）（継続事業）

きものとそれに伴う技術を簡単に解説した小冊子を十三まいりや七五三詣りに該当する世代に配布する。

■染織技術等に関するセミナーの開催（大学生・専門学生～一般）（継続事業）

今年度は 80 周年記念事業に関するセミナーを開催する。

- ・「第 1 回染織文化セミナー」（8 月頃予定） ※80 周年記念展覧会内容
- ・「第 2 回染織文化セミナー」（10 月頃予定） ※書籍内容

■web 上での公開講座（一般）（継続事業）

不特定多数の一般の人々に知識を広めていくため、当協会ウェブサイト上でミニ講座の動画配信を行う。

(ミニ講座)「きものの歴史」シリーズ／「衣装レプリカ制作工程」シリーズ

(方法) 1回の講座は10分迄とし、動画をインターネット動画共有サービス

『YouTube』にアップロードして当協会ウェブサイトにはリンクを貼り閲覧を促す。

「染織技術等継承に関わる助成事業」

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、活発に取り組むを行う団体の、営利目的ではない事業で次に該当する事業に助成を行う。

- ①染織技術の研鑽・向上のための事業
- ②染織技術に関する展示公開等による一般社会への啓発事業
- ③その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

2. 会員事業

「知識啓発事業」

■セミナーの開催

染織全般に関する知識向上を目的とし、染織の歴史、文化やマーケティング等、会員の要望に応じて幅広い分野で開催する。(年1回予定)

■主要展覧会への招待

当協会会員の知識普及を目的に、京都市内で行われる主要な展覧会の入場券を年2回会員に送付し、観覧を促す。

「染織業界発展事業」

■京都プレス事業（継続事業）

伝統的な染織技術と先端技術を融合させた新しい素材の開発を行い、各社にその情報をフィードバックする目的で取り組んでいるが、今年度はシルクオパール糸による製品制作並びに発表を行う。

■会員のための助成事業

歴史ある染織技術を継承し、発展することを目的とした当協会会員の事業助成は、為替の低迷による減収から脱却できていないことから、今年度も引き続き中止とする。

■染織技術の復興に関する情報提供並びに市場提案

公益事業で行われた染織技術復興事業の成果に基づき、産地の掘り起こし並びに商品開発の一助となるよう会員に情報提供を行う。

室町 5 号「紅練緯地雪輪松花綱段替文様小袖」(生地：練緯 技術：染め分け、絞り、辻が花)



室町 9 号「練緯地松皮菱団扇波文様小袖」(生地：練緯 技術：染め分け、本座絞り、辻が花)

